

クラス番号	915	ゼミタイプ	多職種連携型
		担当教員名	浅原 千里
テーマ	「障害」のある人の生活を支援するソーシャルワーク		

ゼミナール概要

○目的

このゼミの目的は、「障害」のある人の生活を支援するソーシャルワークについて学ぶことです。

障害という言葉に「 」で括ったのには理由があります。福祉専門職は「障害」について、医学的に診断される“からだやこころの機能障害”だけでなく、“普段の暮らしにおける生活しづらさ”や、“地域・社会との関係における障壁の存在”も含めてみていきます。“からだやこころの機能障害”は病気、事故、老化などが原因で誰もが抱える可能性があります。“からだやこころの機能障害”がある人が安心して暮らせる支援は、大切な社会保障です。「障害」の意味をよく考え、学んでいきたいと考えています。

また、多職種連携に関しては、次の問題意識をもって学んでいきたいと思います。

- ① 「障害」のある人の生活支援とはどのようなとりくみか？
- ② ①のとりくみには、どのような人々が、どのような形でかかわっているか？
- ③ 「連携」とは、具体的に何をすることなのか？

○内容・方法

ゼミでは、美浜町で「障害」のある人の生活支援を展開している社会福祉法人みはま福祉会のとりくみに、年間を通してかかわらせていただく予定です。みはま福祉会は、知的障害、自閉スペクトラム症などの発達障害、肢体障害などの機能障害を重複して抱える方々に利用されています。

みはま福祉会では具体的にどのようなとりくみがおこなわれているのか？ また、とりくみにはどのような人々がかかわっているのか？ そんな問題意識のもと、まずはみはま福祉会にかかわる人々や地域住民が参画する「あぜーりあ祭り」（例年4月29日；昭和の日に開催）に、ボランティアとして参加します。さらに、利用者と日中活動を共にしてかかわる体験や、みはま福祉会とかかわりのある人々から話をお聞きする体験学習などを通して、「障害」のある人の生活しづらさとはどのようなものか、地域・社会との関係ではどんな障壁が存在するのかを考えます。そして「障害」のある人の生活を支援するソーシャルワークとはどのような実践なのか、どんなことが課題となっているのかを検討し、その結果をみはま福祉会に関係している方々にフィードバックします。

ゼミの時間は主にグループワークを行い、フィールドワークの準備やまとめをゼミメンバー同士「連携」して取り組みます。フィールドワークは相手のあることですので、ゼミ時間外に実施することが多くなります。みなさん自身がみはま福祉会や地域の方々と関わりをもつことで、「連携」を実践的に学びます。

担当教員からのメッセージ



私は大学に勤める前は、福祉施設の職員として、知的障害と自閉スペクトラム症を重複している人たちの生活を支援する仕事をしていました。日常生活の介助や見守りを必要とする方、強度行動障害と呼ばれる状態の方が多かったので、ケアワークをたくさんしました。そのなかで、利用者さんの機能障害、生活のしづらさ、家族のしんどさを具体的に知ることになりました。利用者さんが地域のお店を利用したり、公共交通機関を使って移動したり、活動の場が広がるよう地域の人々に理解と協力を求めるとりくみもしました。地域・社会に大きな障壁の存在を思い知らされることもありました。現在の社会は、少しずつでもノーマライゼーションに向かっていると感じられる部分もあれば、何かの拍子に後退してしまいかねない脆弱な一面ものぞかせています。まずは「障害」のある人のことを知り、地域で暮らすために必要な橋渡しをどのようにしたらよいか、フィールドワークを通して考えてみませんか。皆さんのエントリーをお待ちしています。